

# COLUMN — WiRESのノード接続パターン(FRG) —

## • ノード to ノードでの QSO

交信したいエリアのノードにピン・ポイントで接続して交信する方法です(図7-A)。友人知人と交信する場合に用いられることが多いようです。

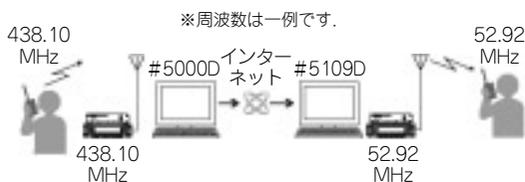


図7-A 1局対1局での接続のようす

## • ラウンド QSO ルームの利用

CQを出したり複数の局とラウンドQSOする場合に用いられます。複数のノード局がラウンドQSOルームに接続して交信を楽しめます(図7-B)。

ラウンドQSOルームには0から始まるノード番号(例えば#0510Dなど)が割り当てられます。そのほか、FRGグループ・コールという機能で、あらかじめ登録したノード局を簡単な操作で集めルームと似たような動作をさせることも可能で、災害時に活用できるのではと期待されています。

ラウンドQSOルームは主宰者(ノード局開設者もしくは局)に申し込めば誰でも開設できます。

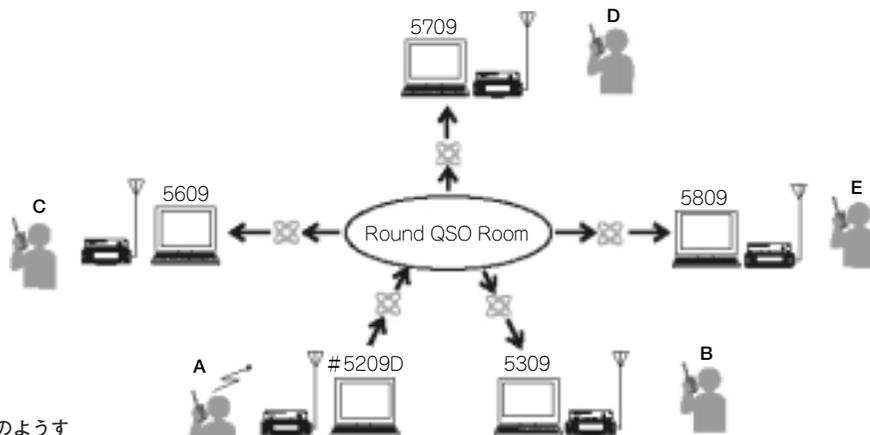


図7-B 複数局での接続のようす

続している場合は(必要に応じてトーンを設定し)、すぐにQSOに参加できます。

### (3) 接続してみる

(2)で待機中と判断できたなら、ノード・リストやラウンドQSOのルーム番号を調べて実際に接続し、WiRES-IIでのQSOに挑戦してみましょう。接続や切断のコマンドは表7-1を、CQを出すことを目的としたCQルームのID番号リストは表7-2を参照してください。また、主なノード局を表7-3に示しておきます。

### (4) 交信が終わったら切断

WiRESでは接続した人が切断するのがマナーとされています。DTMFで#9999D, または\*(アスタリスク)を送信して切断しましょう。切断されるとプププという音が返ってきます。